

一般社団法人 日本鉱物科学会

2024 年度 第 2 回定例理事会 議事録

【1】 招集年月日: 2025 年 5 月 1 日(木)

【2】 開催年月日及び時刻: 2025 年 5 月 15 日(木) 10 時 00 分~12 時 10 分

【3】 開催場所: 広島大学理学部 井上研究室

739-8526 広島県 東広島市 鏡山 1-3-1

(ZOOM Meeting によるオンライン会議)

【4】 理事総数および定数: 総数 22 名, 定足数 12 名

【5】 出席理事数: 19 名

会 長: 井上 徹

副会長: 中村 美千彦

理 事: 安東 淳一, 大藤 弘明, 鍵 裕之, 片山 郁夫, 河上 哲生, 栗林 貴弘, 黒沢 正紀,
佐久間 博, 瀬戸 雄介, DAS Kaushik (ダス カウシク), 土屋 旬, 富岡 尚敬,
永嶋 真理子, 中野 伸彦, M. Satish-Kumar (マドスーダン・サティッシュ・クマール),
芳川 雅子, 森下 知晃

【6】 欠席理事数: 3 名

秋澤 紀克, 辻森 樹, 三河内 岳

【7】 出席監事: 永井 隆哉

【8】 オブザーバー: (理事以外の幹事, 委員長等報告事項報告者)

出席: 興野 純 (和文誌編集幹事), 阿部 なつ江 (会員幹事, 地惑連合連絡担当),
門馬 綱一 (新鉱物・命名・分類委員会委員長), 坂野 靖行 (博物館委員会委員長),
小松 一生 (庶務副幹事), 星出 隆志 (日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員長),
東野 文子 (Elements 幹事), 林 信太郎 (教育普及委員会委員長),
西原 遊 (地球惑星科学連合学会選出プログラム委員・正), 福士 圭介 (地球惑星科学連合学会選
出プログラム委員・副), 斉藤 哲 (広報幹事)

【9】 議事概要

井上理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり, 安東淳一理事が議長に選出された。次に, 決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い, 理事 20 名の出席を確認したので, 定款 30 条により理事会が成立した。このことを受け, 安東議長は WEB 会議システム(ZOOM Meeting)を利用したオンライン会議としての理事会開会を宣言した。また, WEB 会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり, 適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し, 2024 年度第 2 回定例理事会を開始した。

会議に先立ち, 理事の互選で小松一生庶務副幹事が書記として選出された。

I. 報告事項

1. 法人税のダイレクト納税の導入について（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、税務署への法人税納税手続きに関して e-Tax を利用したダイレクト納税を導入することが報告された。これまでは顧問に複写式の納付書作成と事務局へ郵送を依頼していたが、2025 年より複写式納付書の作成に 1 枚 3,000 円の費用が発生するようになったことへの対処である。法人税と源泉徴収税（税理士報酬分）の納税手続きは顧問が対応するとのことであった。

2. 年会用口座用のキャッシュカード作成と運用法について（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、第 1 回臨時理事会にて協議されていた通り、旧「学会賞・奨励賞・論文賞基金」の口座を転用する形で、年会用口座を設けることとなったことが報告された。また、年会の準備費用を事前に引き出せる体制を整えるために、キャッシュカードの作成も行い、キャッシュカード利用にあたっての運用ルール（「単価が 10 万円以下の支払い目的に限る」など）と誓約書を準備したことなどが別紙の資料とともに説明された。

3. 公益法人会計基準の改正について（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、令和 6 年度に公益法人会計基準が改正になり、一般社団法人は「令和 6 年公益法人会計基準」、または「企業会計などその他会計基準」のどちらの基準を適用するか選択が必要であることが説明され、今後顧問に相談の上、年内に方針を決定する旨報告があった。

4. 2024 年度会計中間報告（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、日本鉱物科学会 2024 年度会計収支（2024 年 8 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日）に関して、2025 年 4 月 30 日現在における収支状況について別紙資料にある収支表が提示され詳細な説明がなされた。

収入

会費納入率は 80.5% で昨年同時期の 90% 程度に比べてやや低く、改めて事務局から催促する予定である。
名古屋大会における年会収入が全体の収入を押し上げている（支出との差額は約 68 万円）。

支出

概ね予算通り執行できている。

GKK の編集業務委託費がすでに予算額に達しており今後赤字となるため、予算案に反映して対応する予定である。

Elements の購読料が 2023 年度に対して、為替の変動等の影響もあり 1 割程度安価になったことで 14 万円ほど支出減となっている。今後の傾向は不明な点が多いので注視する必要がある。

5. 行事・年会報告（瀬戸行事幹事）

瀬戸行事幹事より、2025 年度年会（山口大学）の準備状況について報告があった。

- ・ 会期は 2025 年 9 月 10 日～12 日、定時総会は 2 日目（11 日）に開催予定。
- ・ 研究発表は対面形式で実施。予算・人員面の制約により、全体のハイブリッド開催は行わないが、定時総会と受賞講演はハイブリッドで実施予定。
- ・ セッション構成は例年通りで、S1 セッションは火山学会との共催を予定。
- ・ 参加登録料は前年と同額。非会員の招待講演者は参加登録料を無料とする予定（ガイドライン改正を前提とした措置）。
- ・ 企業展示の募集を開始済。現地での出展 1 件、広告出稿 1 件あり。関係者に企業への声かけを依頼。

- 託児所の設置を予定しており、学会からの予算的支援について今後審議予定。
- 一般公開講演や巡検の実施予定はなし。YMO 企画、企業と学生の交流会は未定または実施しない方針。
- 講演申込は 6 月 13 日～7 月 4 日（5 日程度の延長予定）。7 月中旬にセッションごとの発表日時を先行公開予定。
- 8 月上旬にプログラム公開と参加登録開始。9 月上旬に事前割引を終了、以降も通常料金で登録可能。

6. 火山学会のセッション共催（中村特務幹事）

中村特務幹事より、火山学会の理事会で、火成作用のダイナミクスのセッションを共催することが承認されたことが報告された。さらに火山学会の秋季大会でも、対称の形で共催を進められるよう、セッションの立て方の検討がはじまっていることも説明された。火山学会側のセッションとしては、今年の 9 月の学会には間に合わない可能性が高いが、来年度については東京開催の鉱物科学会と山形開催の火山学会をオンラインでつないだ上でセッションを共催することが報告された。

7. 会員報告（阿部会員幹事）

阿部会員幹事より、2024 年度第 1 回臨時理事会(2024 年 11 月 5 日)以降の会員動静について以下の通り報告がなされた。

物故会員 1 名（永年会員 1 名）、退会者 10 名（一般会員 1 名、学生会員 7 名、シニア会員 2 名）

この結果、2024 年 11 月 19 日現在の会員数は

843 名(2024/11/19 定例理事会)-10(退会、申請中退会者除く)=833 名

となった。また、2 年間会費未納により会員停止予定者が 9 名ある旨報告された。

8. 和文誌編集報告（興野 和文誌編集幹事）

興野和文誌編集幹事より、2023 年 12 月 14 日～2024 年 5 月 20 日までの編集状況について議事資料に基づき報告がなされた。

1. 編集・発行状況

53 巻 1 号電子ジャーナル 1 編公開（総説 講義シリーズ）

54 巻 1 号電子ジャーナル 7 編公開（研究奨励賞第 35 回受賞者受賞記念研究紹介、日本鉱物科学会賞第 30 回受賞者受賞記念研究紹介、日本鉱物科学会研究奨励賞第 36 回受賞者受賞記念研究紹介、原著論文 1 編、解説・資料 2 編、「日本新産鉱物情報（2024 年）」）

現在受理論文 1 編、査読中論文 4 編（総説 [講義シリーズ]、原著論文 2 編、若手研究紹介）

2. 鉱物名の表記について

現在、鉱物の正式な和名は決定されておらず、決定する機関もないことが問題提起された。もともと理科の教科書で表記が統一されていないという問題があり、GKK としての方針も決まっていなかったことから、まずは GKK の方針を決定した。近日中に鉱物の和名表記ルールを投稿規定に追記予定である。また鉱物の正式な和名をどのように決定するかについて議論された結果、新鉱物国内委員会のメンバーに、理事会のメンバーを数名加えた WG を立ち上げることが承認され、今後の方針を議論していくこととなった。

9. 英文誌編集報告（Satish-Kumar 英文誌編集幹事）

Satish-Kumar 英文誌編集幹事より、2024 年 11 月 19 日第 1 回臨時理事会報告以降の JMPS 誌の状況および Creative Commons (CC) のフォーマットに関して報告された。

1. JMPS 現状報告

- 1) 投稿数状況:現在までほぼ例年どおりの投稿数で推移している。特集号の企画について良い案があれば提案していただきたい。
- 2) 編集状況: 早期公開準備・印刷準備中:1 件, 査読中:14 件 返却中:7 件
- 3) 発行状況:
 - ・119 巻1号電子ジャーナル, 原著論文 25 編 Letter 3 編 Errata 1 編 計 283 頁
 - ・119 巻 ANTARCTICA 号電子ジャーナル, 原著論文 2 編 計 23 頁
 - ・120 巻1号電子ジャーナル, 原著論文 9 編 Review 1 編 Letter 2 編 計 123 頁

2. CC のコピーライトフォーマットの修正

3 月の編集委員会にて CC について, コピーライトのフォーマットが修正されたものが提案され承認された。6 月の論文からロゴ付きで掲載される。

10. 学術会議の問題に関して (井上会長)

井上会長より, 日本学術会議の法人化に関する問題について, 多くの研究者が危機感を抱いている現状が共有された。4 月 15 日には日本学術会議が法人化法案の修正を国会に求める決議を行っており, 現在, 他学協会と連携しながら対応を検討中であるとの報告があった。今後, 署名活動等の要請があった場合には, 適切に対応する方針が示された。また, 類似の海外事例の紹介や, 法人化問題に議論が集中し他の重要課題への影響が出ている現状などが指摘され, 声明等を出す場合には他学協会との連携が重要であるとの意見があった。井上会長からは, 修正案の国会での動向を注視しつつ, 学会として全体の状況を見ながら慎重に対応していく方針が示された。

11. 9 月, 4 月開催の IMA 博物館委員会 (IMA-CM) web 会議報告 (坂野博物館委員会委員長)

坂野博物館委員会委員長より, 2024 年 9 月および 2025 年 4 月に開催された IMA 博物館委員会 (IMA-CM) Web 会議について報告があった。

- ・国際会議 M&M 開催申請ガイドラインの改訂案が承認され, 次回 M&M11 の開催年を 2027 年 (EMC と重複しない年) とする方針が示された。
- ・M&M11 (2027 年開催) の開催候補地として北米 3 地域 (ミシガン, オタワ, メーン州ベルテ) が挙げられ, 4 月中の投票が要請された。JAMS の博物館委員の意見を集約し, オタワへの投票を実施した。
- ・IMA-CM の人事についても投票が行われ, 承認された。
- ・委員に対して M&M11 関連の情報共有を行ったほか, 国内博物館の鉱物コレクション概要の取りまとめに向けた原案作成が進められていることが報告された。

12. 今後の予定 (安東庶務幹事)

安東庶務幹事より, 監査・理事会・総会の日程について以下のように説明がなされた。

- ・2024 年度決算書等の監査は, 8 月 21 日 (木) 10:00 より実施されることとなり, 事前準備は前日の 8 月 20 日 (水) に行う。
- ・それに伴い, 第 3 回定例理事会は 8 月 21 日 (木) 午後または 8 月 22 日 (金) 午前に開催する必要がある, 具体的な日程は後日審議する。
- ・2024 年度定時総会は, 9 月 11 日 (年会 2 日目) にハイブリッド形式で開催予定。

井上会長より, 学会年度が 7 月締めであることを踏まえると, 監査日程の関係上, 年会の開催時期をこれ以上早めることは困難であり, 今回の日程が限界であるとの説明があった。これを受けて, 今後の年会開催はこの日

程を考慮にいれることが確認された。

13. その他の報告（安東庶務幹事）

安東庶務幹事より、櫻井賞候補者の決定日程および他団体行事（化学工学会、日本熱測定学会、日本結晶学会、日本粘土学会、日本セラミックス協会）への後援について報告がなされた。会員からの問い合わせには広報幹事・庶務幹事を中心に対応しているが、今後も学会として可能な限り対応していく方針であり、理事の協力を求めたいとの説明があった。

II. 審議事項

第1号議案 新入会承認（阿部会員幹事）

阿部会員幹事より、一般会員4名、学生会員2名（記載省略）の入会申請が紹介された。また高校生1名の学生会員入会希望があり、学会から活動内容と会員の権利および義務についての説明を行ったことが説明された。審議の結果、6名の入会および高校生1名の入会が承認された。

この結果、2025年5月15日現在の会員数総数は840名（内訳：一般会員516名、シニア会員168名、学生会員109名、永年会員38名、名誉会員9名）で、2024年11月19日の臨時理事会後より3名の減少となった。

また今回、一般会員の中でもアカデミア以外の入会希望があったこともあり、現在の会員区分の見直しや学生会員のパッケージ化を進めていく必要性が確認された。

第2号議案 各賞選考委員会報告と審議

(1) 日本鉱物科学会賞受賞候補者（報告：野口委員長）

日本鉱物科学会賞選考委員会 野口委員長より、2024年度日本鉱物科学会賞第31回および第32回受賞候補者として富岡 尚敬 会員および宇都宮 聡 会員が報告され、審議の結果、異議なく承認された。

2024年度日本鉱物科学会賞第31回受賞者

富岡 尚敬 会員（海洋研究開発機構高知コア研究所）

業績題目：「高温高圧下における惑星物質の相転移と変形の挙動解明」

2024年度日本鉱物科学会賞第32回受賞者

宇都宮 聡 会員（九州大学大学院理学研究院化学部門）

業績題目：「福島第一原発事故で放出された高濃度放射性セシウム含有微粒子に関する先導的研究」

(2) 渡邊萬次郎賞受賞候補者（報告：土屋委員長、代理報告：安東庶務幹事）

渡邊萬次郎賞選考委員会土屋委員長の代理として安東庶務幹事より、委員会で慎重に審議し選考した結果、2024年度 渡邊萬次郎賞受賞第41回受賞候補者として周藤 賢治 永年会員を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

(3) 日本鉱物科学会論文賞受賞候補論文（報告：星出委員長）

日本鉱物科学会論文賞選考委員会 星出委員長より、委員会による選考ならびに投票の結果、下記2編が受賞適格論文として選出されたことが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

[論文 1]

Water contents and pressures of melts in unerupted felsic magma constrained by SEM-EDS analysis of homogenized melt inclusions in zircon

2024 年 119 巻 1 号 論文 ID: 230904

Taichi KAWASHIMA, Kazuya SHIMOOKA, Toko FUKUI, Satoshi SAITO

[論文 2]

Carbon isotopic composition of graphite in metamorphic rocks from Lützow-Holm Complex, East Antarctica: Implications for carbon geodynamic cycle in continental crust

2023 年 118 巻 ANTARCTICA 号 論文 ID: 230401

M. SATISH-KUMAR

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞受賞候補者（報告：佐久間委員長）

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会 佐久間委員長より、選考委員会で規定に則った審議の結果、2024 年度日本鉱物科学会研究奨励賞第 37 回ならびに第 38 回受賞候補者として、大柳 良介 会員ならびに則竹 史哉 会員を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

2024 年度日本鉱物科学会研究奨励賞第 37 回受賞者

大柳良介 会員（国土舘大学理工学部理工学科）

研究対象：沈み込み帯や海洋底における岩石－水相互作用プロセスの解読

2024 年度日本鉱物科学会研究奨励賞第 38 回受賞者

則竹史哉 会員（山梨大学大学院総合研究部）

研究対象：原子モデルに基づくけい酸塩溶融体の粘性支配因子の解明

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞受賞候補者（報告：門馬委員長）

応用鉱物科学賞選考委員会 門馬委員長より、選考委員会での審議の結果、2024 年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第 17 回受賞候補者として瀬戸雄介会員を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

2024 年度 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第 17 回受賞者

瀬戸雄介 会員（大阪公立大学大学院理学研究科）

業績題目：鉱物学・結晶学を基盤としたソフトウェア開発と鉱物科学への貢献

(6) 2024年度JMPS学生論文賞受賞候補論文（報告：Satish-Kumar JMPS選考委員長）

JMPS 学生論文賞選考委員会 Satish-Kumar 委員長より、2024 年度 JMPS 学生論文賞対象論文について編集委員会で投票の結果、第 18 回受賞論文として下記 1 編を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

対象論文：Water contents and pressures of melts in unerupted felsic magma constrained by SEM-EDS analysis of homogenized melt inclusions in zircon (<https://doi.org/10.2465/jmps.230904>)

著者：Taichi KAWASHIMA, Kazuya SHIMOOKA, Toko FUKUI, Satoshi SAITO（代表著者）

(7) 2024年度櫻井賞受賞候補者（報告：松原委員長，代理報告：安東庶務幹事）

第2回定例理事会後の6月10日にメール審議を行った。選考委員会での審議の結果、2024年度櫻井賞第47回受賞候補者として田中崇裕会員を推薦することが報告された。審議の結果、異議なく承認された。

2024年度 日本鉱物科学会櫻井賞第47回受賞者

田中 崇裕 会員（日鉄鉱コンサルタント株式会社）

対象鉱物：三千年鉱

Tanaka T., Shinmachi T., Kataoka K. and Nishio-Hamane D. (2024) Michitoshiite-(Cu), a new Ge-containing platinum-group mineral from Kumamoto Prefecture, Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. C, 50, 1–6.

第3号議案 研究発表優秀賞選考委員会新委員長の会長指名（井上会長）

井上会長より、研究発表優秀賞選考委員会について、新委員長として松本 徹 会員が指名された。

研究発表優秀賞選考委員会

新委員長（2期目の委員の中から会長が指名）：松本 徹会員

継続2期目5名 松本 徹（副委員長）、西山直毅、永冶 方敬、安武正展、濱田麻希

新規1期目5名および副委員長については今後新委員長が指名することとなり次回理事会で審議されることが確認された。また、研究発表優秀賞の選考について、名古屋大会では応募者数が非常に多く、現行の10名という上限では対応が困難であったとの報告があった。今後も応募数が多い場合に備え、ガイドラインの「10名」を「10名程度」とするなどの柔軟な対応を可能にする変更について、次回理事会で審議する可能性があることが共有された。

第4号議案 2026年年会(東京大学)日程，運営委員長ならびに委員について（瀬戸行事幹事）

瀬戸行事幹事より、2026年年会を以下の日程・体制で開催することが提案され承認された。

日程：2026年9月24日（木）～9月26日（土）

※この日程は火山学会と完全に重複しているが、大学院入試や停電の影響等により変更は困難との説明があった（鍵委員長）。

現地運営委員会：

委員長：鍵 裕之

副委員長：橘 省吾（今回新たに審議）

委員：小松 一生，鈴木 庸平，瀧川 晶，三河内 岳，ウォリス サイモン，

浜根 大輔（前回理事会以降に追加），奥村 大河

第5号議案 2025年度予算案（富岡会計幹事）

富岡会計幹事より、2025年度予算案について別紙資料に基づき以下のように説明があり承認された。

2025年度予算は2024年度予算をベースとして編成している。繰越金取り崩し額は約63万円と見込んでおり、前年より約34万円の赤字増。主な要因として、会費収入の減少（特に学生会員の就職等による退会の影響）、GKK編集業務委託費の増額（+10万円）、男女共同参画推進費（託児スペース設置等にかかる新規費用として15万円を計上）などがある。なお、2024年度決算は約60万円の黒字であったことから、短期的な財政上の問題はないと判断した。また、学会賞関連費用を特定資産から一般会計に移行したため、特定資産関係の科目については次年度予算から削除予定である。特集号収入は見込まれないことから、出版収入は前年並みに設定した。管理費に

については、次号議案に関連するホームページ運用費増に伴い、約5万円の増額予定である。

第6号議案 鉱物科学会 HP 管理の一部を事務局に移管する件について（井上会長）

井上会長より、広報委員の負担軽減のため、HP への情報掲載業務の一部を事務局に移管することが提案された。これにより年間約4万円の支出が見込まれるが、必要な経費と判断される。審議の結果、承認された。

第7号議案 第3回定例理事会について（安東庶務幹事）

安東庶務幹事より、第3回定例理事会を8月21日（木）の午後、或いは8月22日（金）の午前で行う必要がある旨が説明された。本件については時間が限られているためメール審議となった。

第8号議案 事務局（東北大学）の整理について（井上会長）

井上会長より、事務局の整理について以下のように提案がなされた。

現在、鉱物科学会では、東北大学理学部合同A棟420号室（0.5スパン）を事務局として借用しているが、実際の運営は小宮山印刷に外部委託しており、東北大学の部屋は事実上、資料等の保管場所となっている。このため、今後も東北大学の一室を使用し続けることの適切性を鑑み、学会事務書類の大規模な整理・処分を実施し、大型備品については東北大学への返還または廃棄を行うことが提案された。

法人として過去10年間の資料の保管は必要だが、ダンボール10箱程度であれば現在の事務局である小宮山印刷仙台営業所での保管が可能との見通しが示された。これを機に、将来的な事務局の完全移転も視野に入れた整理を行いたいとされた。なお、所在地を小宮山印刷に変更する場合でも、登記簿や銀行・税務署への登録住所の変更に伴う追加費用は発生せず、定款にも「本会は、主たる事務所を宮城県仙台市に置く」と記載されているため、定款変更も不要である。したがって、本件は理事会での決定により進めることが可能である。

提案は了承され、今後この方針で進めていくこととなった。

第9号議案 年会開催のガイドライン11項の改正（瀬戸行事幹事）

瀬戸行事幹事より、年会において多様な講演者を招待しやすくするため、参加登録料の無償化を実施できるようにすること、および年会ガイドラインの11項において「招待講演者の旅費や参加登録料の支援はないことに留意すること。」という文面を削除することが提案された。また、各年会の予算状況によっては無償化をとりやめる可能性についても言及され、年会ごとに柔軟に対応してほしいとの説明があった。審議の上、上記のとおりガイドラインを改正することで承認された。

第10号議案 準国石選定WGからの答申について（井上会長）

井上会長より、前回の理事会で設置が承認された「準国石選定ワーキンググループ（WG）」より、理事会宛に提出された答申（別紙参照）に関して報告があった。WGには17名が参加しており、ほぼ全員から準国石を選定することへの賛同が得られた。

ただし、準国石の選定にあたっては、石英の1種に絞るか、4種とするかについて意見が分かれた。理事会では、「取り組みとして意義があるが、岩石と鉱物の違いにこだわりすぎず柔軟に対応すべきではないか」との意見や、「ワーキンググループ内でも意見が割れており、1種に絞ることは現実的ではない」との指摘があった。また、「理事会で決定したとしても会員からの反対意見が出る可能性があり、総会での決定も検討すべきではないか」との意見や、「発表のタイミングとして学会広報誌への掲載も視野に入るが、目的が十分に共有されていなかった可能性がある。鉱物科学の普及という趣旨に照らせば、対象が多様であることにも意味がある」といった見解も示された。

これらを踏まえ、準国石は4種とすることを理事会の決定とした。

第11号議案 渡邊萬次郎賞検討WGからの答申について（井上会長）

井上会長より、前回の理事会で設置が承認された「渡邊萬次郎賞検討WG」より、理事会宛に提出された答申（別紙参照）に関して報告があった。

渡邊萬次郎賞検討WGからは、受賞者へのメダル等の副賞および総会出席のための交通費の有無や基金の取り扱い、さらには選考方法、対象者に関わる重要な規約の変更が提案されたが、変更点が多岐にわたりいずれも重要な変更を含むことから継続審議となった。

【10】閉会

閉会 以上の議事を終え、12時10分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和7年6月 日

会 長 井上 徹 印

副会長 中村 美千彦 印

監 事 永井 隆哉 印

（配布時押印省略）